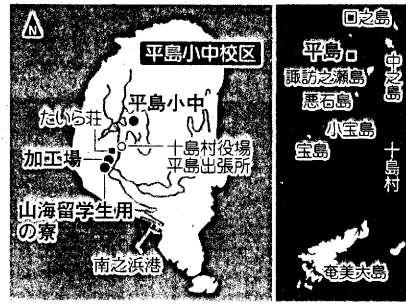


わがまちナビ

十島村 平島小中学校区

データ

平島小中学校は1930(昭和5)年、中之島尋常小学校平島分教場として創設された。7月末現在、児童数は4人。校区の十島村平島には39世帯63人が暮らす。島外に出るには週2便の村営船が頼り。島には看護師1人が常駐する診療所や、温泉もある。平家の落人伝説があり島名の由来となっている。



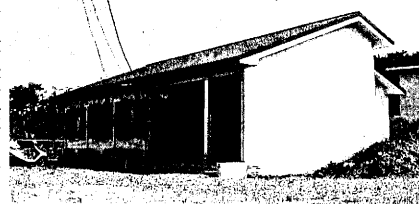
鹿児島地区

十島村の有人7島のうち唯一、人口減少傾向が続いているのが平島だ。村は本土から来て平島小中学校で学ぶ山海留學生や移住者を呼び込もうと、留學生向け寮を新設したり、水産加工場の活用を模索したり躍起になっている。

(児玉裕子)

島外から人呼び込め

十島村は2010年、移住期間を最長2年から5年に住者向けの奨励金制度を導入した。農林水産業や観光業に従事した場合、勤務日数に応じて、村人口は10年数に応じて単身者に1日7千円、家族がいる場合は1万円を支給。12年には支給



4月に開設した山海留學生の寮

しかし平島は減少している。村によると、10年時点では72人いたが、今年7月末では63人になっている。最も多かった1955年の203人と比べると3分の1に満たない。

減少の一因とされるのが山海留學生の減少だ。「自宅で面倒を見てきた里親が高齢化し受け入れ先が減ったことが影響している」と村教育委員会。これまで島では単年度で最大7人の留學生を受け入れたが、16年度は中学3年生1人にとどまった。

村は島民らと対策を協議し昨年、留學生用の寮を新設することを決めた。国の交付金を活用。子供の個室が3部屋ある木造平屋の寮を今年4月に開設した。さらに本年度中に3部屋ある別棟を造る。

そうした取り組みもあり4月から小中学生各1人の留學生が来島。平島小中学校の全児童生徒4人のうち半数が留學生となった。2学期にはさらに本土から1人加わる。

寮は地元元の観光ガイド日高守さん(63)と畜産業の日高美佐子さん(59)が暫定的に務めている。当初島外から家族連れを雇う計画だったが、採用が開設に間に合わなかったためだ。

だがここに来て島で暮らした経験のある50代男性が名乗りを上げ、採用が内定。家族で移住し来年4月から着任するめどがついた。

自然生かす体験教育



収穫した島バナナを食べる子どもたち (平島小中学校提供)

山海留學生として島外から児童生徒を受け入れている平島小中学校では、豊かな自然を生かした教育が1年を通して実践されている。島の特産品である大名タケノコの収穫や、港での魚釣りなどだ。

学校では、高さ約6mの木に登り、のこぎりで1房切り落とした。子どもたちは、長さ10cmほどの小ぶりの島バナナを1人1本ずつ味わった。

今回の「わがまちナビ」は8月22日付。曽於市の光神小学校校区を紹介します。